

“いばたん”に挑戦 東海高校生が地域の魅力を探究!

村と県立東海高等学校は、令和6年2月に締結したフレンドシップ協定に基づく取り組みの一つとして、2年生の「総合的な探究の時間」を活用して、高校生が地域の魅力を見つけ、深掘りし、最終的には動画作品にまとめ、発信する授業を展開しています。この授業では、高校生が学校から地域に飛び出し、地域の魅力的な大人に出会い、村の魅力を「知る・学ぶ・探究する」ことを最も大切にしています。

制作した動画作品は、茨城大学のいばたん実行委員会が運営する「茨城の魅力を探究し発信する高校生コンテスト(通称「いばたん」)」へ応募しています。5回目となる今回は、2年生156人が37チームに分かれ、作品を応募しました。

【問い合わせ】地域戦略課こども・わかもの政策担当(☎282-1711 内線1339)

いばたん
って?

茨城県内の高校生が県の魅力を伝える動画を作成する過程で地域の魅力を知ったり、魅力を世界に向けて発信したりするプロジェクトです。「雄弁に茨城の魅力を語ってほしい」「若者は地域を語れる存在であってほしい」との思いからスタートし、今年で7年目となります。次世代のリーダーとなる若者の郷土愛を育む後押しをすることを目的としています。



Tokai No.1 決定戦

1月21日、1年間の集大成として「Tokai No.1 決定戦」を開催しました。これは、せっかくなら東海高校の1番も決めてしまおうと3年前から村と東海高校が独自に展開しているコンテストです。今回は全チーム参加のもと、校内発表会を勝ち上がった9作品を上映しました。阿内勉校長のほか山田村長や萩谷副村長などが審査員になって最優秀賞を決定しました。また、会場投票で最も人気のあった作品を特別賞として表彰しました。



最優秀賞 「いばたんクエスト～イモゾーを救え～」
(チーム名：イモゾー救出隊)



▲イモゾー救出隊の動画はこちら



特別賞 「東海村の魅力について」
(チーム名：なめさん)



▲なめさんの動画はこちら

フィールドワーク

まずは「まちに飛び出そう」を合言葉に、村内の企業・事業所・公共施設の皆さんに協力していただき、動画撮影やインタビューに挑戦しました。地域の大人と出会い、交流することで、学校内だけでは得られない気付きや新たな発見を得ることができました。撮影やインタビューを快く引き受けてくれた皆さん、ご協力ありがとうございました。



いばたん2025

いばたん2025の結果は、受賞者のインタビュー等も含めて、広報とうかい(4月10日号)で紹介します。

校内発表会

作成した動画を校内で発表しました。

動画作成(本番)

これまでの授業を参考に作成する動画のテーマを決めて、撮影・インタビュー・編集作業を行いました。

キックオフ授業

役場職員と、いばたん実行委員を務める茨城大学の学生から村の概要やいばたんについて説明を受けました。

そして3年生へ

2月

1月

12月

11月

10月

9月

8月

7月

6月

5月

2年生に進級

今年度の歩み

東海高校の作品が
いばたん2025を
席巻

- 優良賞(第3位) & 茨城県観光物産協会特別賞
「芋づる式記憶喪失～金属バットで始まる物語～」(チーム名：いもこぼんざめ)
- 自治体特別賞(東海村)
「いばたんクエスト～イモゾーを救え～」(チーム名：イモゾー救出隊)
- 自治体特別賞(潮来市)
「ずんだもんの旅～by 東海村～」(チーム名：東海村の旅～Groovy～)



▲本選出場全22作品はこちら(うち6作品が東海高校)

動画作成(お試し版)

フィールドワークで撮影した動画を編集しました。

動画撮影・編集の基礎を学ぶ

株式会社JWAYの社員を外部講師として招き、著作権や動画撮影・編集の方法を学びました。

魅力深掘り授業

実際に業務を担当している役場職員を講師として、村の魅力を深掘りしました。
内容▼農業、シティプロモーション、観光、歴史、スポーツ、保育、公共施設、わかもののみち

